

- 防災教育について
- やまなし読書活動促進事業について
- S S Hを活かして取り組む理系力の向上と学校の活性化
- キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰校の取組
- レクで学校丸ごと元気アップ事業
- 身近な地域スポーツ促進事業
- 博学連携の取り組み ～文学館の取り組み～
- 総合教育センター相談支援部における相談業務について
- 学校紹介／市川三郷町立市川南小学校・道志村立道志中学校
- 県立美術館「やまなしの戦後美術 - 四人の革新者たち」
- 県立美術館「大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角」
- 県立文学館企画展「谷崎潤一郎展 文豪に出会う」
- 県立考古博物館特別展「掘り起こされた音の形 -まつりと音具の世界-」
- 県立博物館秋期企画展「甲斐の黒駒 ～歴史を動かした馬たち～」
- ミュージアム甲斐・ネットワーク／韮崎市民俗資料館
- 山梨の文化財／県指定有形文化財 絹本著色不動明王像 附紙本著色不動明王像
- 平成26年度インターハイ閉幕 ～大会を支えた生徒の取り組み～
- 「山梨県教職員文化展」の作品募集
- サポステ・学校連携推進事業

Click!

※指定ページにジャンプします



山梨県教育委員会

作品タイトル 「鷹」

山梨県立甲府支援学校

高等部 3年 平野 正広

指導者：宮良 かのる 教諭

# 防災教育の充実 ～自らの命を守り、主体的に行動できる児童生徒の育成～

義務教育課

## 1 防災教育の在り方

防災教育は、安全教育の一環として行われるものです。安全教育では、児童生徒が安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けることができるようにすることが大切です。自他の危険予測や危険回避能力を身に付けることができるように、発達の段階を踏まえつつ、学校の教育活動全体で取り組むことが重要です。

また、適切な判断や行動、災害における心身のダメージを最小限に留めるために、事前に災害時における心身のストレスをセルフコントロールできる力を身に付けることができるような取組が必要です。

## 2 実践的な避難訓練の実施 「平成25年度学校危機管理（学校安全）に関する調査」より

- ・緊急地震速報を活用した避難訓練を実施した公立小・中学校の割合・・・37%
- ・休み時間中に避難訓練を実施した公立小・中学校の割合・・・・・・・・・・66%
- ・予告なしの避難訓練を実施した公立小・中学校・・・・・・・・・・65%

型どおりの避難訓練から

課題がみつかる避難訓練へ

### (1) 防災教育の目標

- ①自らの危険を予測し、回避する能力を高める **自助**
  - ・周りの状況に応じ、自らの命を守り抜くために「主体的に行動する態度」の育成
  - ・防災教育の基礎となる基本的な知識に関する指導の充実
- ②支援者としての視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める **共助・公助**

### (2) 効果的な避難訓練にするために

- ①事前学習の実施  
校舎の配置図などを使用し、「どこにいた時には、どこへ避難するか」について児童生徒一人一人がシミュレーションしてから避難訓練を行う。
- ②教師の指示がない中（放送機器が使えなくなったことを想定）での訓練の実施  
緊急地震速報のチャイム音を利用したり、地震が発生していることを知らせる効果音を利用したりすることで、指示がない中で行動する避難訓練を行う。
- ③「心のケア」「配慮が必要な児童生徒への対応」を考慮した訓練の実施  
実践的な訓練の際に、精神的な負担が大きくなる児童生徒への対応を考慮して行う。緊急地震速報などのチャイム音を聞いただけで、精神的なショックを受ける児童生徒もいる。  
一人一人の様子を観察し、適切に対応する。

※児童生徒が、自らの安全を確保するための行動がとれるようにする。

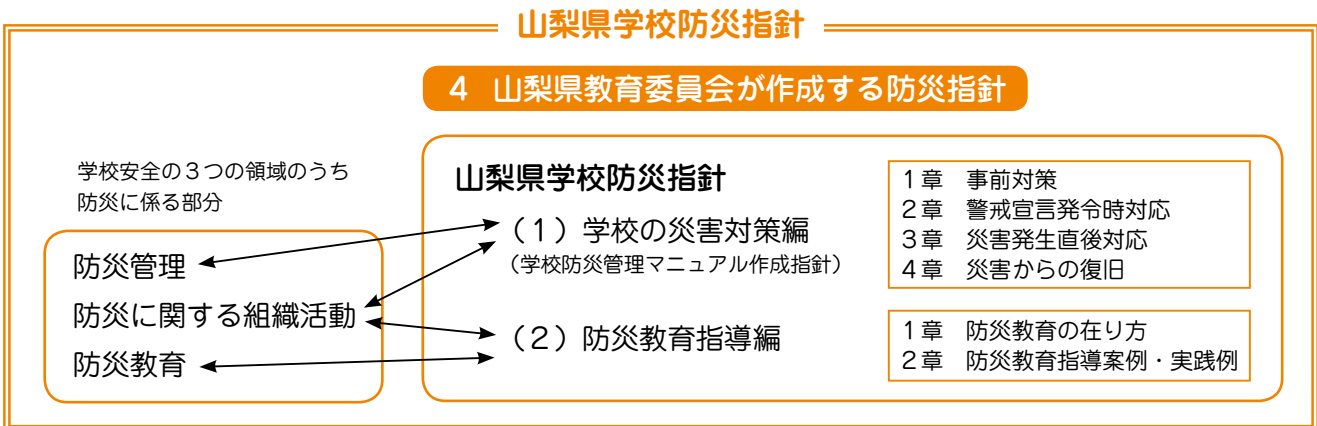
※教師は、状況に応じた的確に判断し、指示をだすことができるようにする。

→教師の研修・訓練が必要不可欠です！！



### 3 防災教育の取組

#### ○ 山梨県学校防災指針の改訂（平成26年3月）



※防災教育指導編として、指導事例も掲載しているので活用してください。

[http://www.ypec.ed.jp/webkyou/bousai/H26/h26\\_mokuji.html](http://www.ypec.ed.jp/webkyou/bousai/H26/h26_mokuji.html)

Click!



#### ○ 実践的防災教育推進事業

・本年度の事業実施校・・・牧丘第一小学校・西条小学校・笛川中学校・押原中学校

#### 昨年度の成果発表会より（一部を抜粋）

児童生徒の避難の様子をビデオ撮影し、防災アドバイザーの先生とともに訓練後に教職員で検証しました。「児童生徒は教室に戻ろうとする」「校内放送は使えない」「先生の指示がなければ動けない児童生徒がいる」「お・か・し・も（押さない・かけない・しゃべらない・もどらない）は万能ではない」「必要があれば話をし、校庭の近くにいた場合には、走って逃げることも状況に応じてありうる」「児童生徒の心のケアも大切である」等が課題としてあがっています。

#### ○ 学校安全教室推進事業（防災教室講習会）

教師を対象とした災害図上訓練（D I G）を中心とした研修を実施しています。

- ・ H 2 4：過去の地図との比較から地域の災害（大雨・地震等）について
- ・ H 2 5：下校時に大規模地震が発生した際の対応について
- ・ H 2 6：授業で行う災害図上訓練（D I G）について

地図上に地域の特徴や危険箇所を書き込み、災害への対処方法をグループで討論します。授業で実践された学校の例では、「子供たちが夢中で取り組む」「子供の方が地域のことをよく知っていて大人が逆に教えられた」「授業参観で実施することも有効」などの声が聞かれています。特別活動や総合的な学習の時間等で、是非実践してみてください。

### 4 防災教育のひろがり

- ・ 防災教育は、「命を守る」ために重要です。
  - ・ さらに、「気付く」「思いやる」「協同する」「思考・判断する」「実践し行動する」などの態度を身に付けることも期待されています。
- ※防災教育の意義を再認識し、できることから実行に移していきましょう。  
そして、より良いものに高めていながら、継続していきましょう。



## やまなし読書活動促進事業

### 社会教育課

#### 「本を贈った（贈られた）エピソード」募集

〔募集期間〕平成26年7月28日(月)～平成26年9月30日(火) 必着

〔応募資格〕自身の体験に基づいたもので、自作、未発表のものならどなたでも応募できます。

〔表彰〕最優秀賞(1点) 賞状及び副賞(3万円程度の図書カード)  
優秀賞(若干名) 賞状及び副賞(図書カード)

〔応募方法〕封書、FAX、Eメール、応募票又は官製はがきに、本を贈った、又は贈られた時のエピソード(200字以内)を記入してお送りください。

住所(番地は不要)、氏名(ふりがな)、連絡先(電話番号又はメールアドレス)、年齢、性別を記入のうえ、贈った(贈られた)本の書名、贈った(贈られた)相手との関係(親、同僚、知人、友人等、簡単に結構です)をお書きください。詳しくはホームページでご確認ください。

〔選定・発表〕選定委員会で審査し、入選者には直接通知するほか、県のホームページなどで発表するとともに、11月11日(火)に行われるセカンドステージで表彰します。

#### セカンドステージ

〔開催日程〕平成26年11月11日(火) 午後1時30分～表彰式 午後2時～講演会

〔会場〕山梨県立図書館1Fイベントスペース

〔講演会〕講師 藤原正彦氏(『国家の品格』著者) 演題「祖国とは国語」

〔お申込み〕事前申込制(H26年9月20日から受付) 先着350人 聴講無料  
お申込み先：山梨県立図書館 TEL 055-255-1040

#### サードステージ

〔開催日程〕平成27年2月15日(日) 午後1時30分

〔会場〕山梨県立図書館1Fイベントスペース

〔内容〕ビブリオバトル テーマ「贈りたい本」、阿刀田慶子氏による朗読会

〔お申込み〕事前申込制(H26年12月1日から受付) 参加無料

お申込み先：山梨県教育庁社会教育課 TEL 055-223-1772



※ビブリオバトル研修会開催 11月15日(日) 詳細は社会教育課にお問い合わせください。

#### 「贈りたい本大賞－大切な人に贈りたい1冊－」募集

〔募集期間〕平成26年9月20日(土)～平成26年11月15日(土)

〔応募内容〕次の6部門から1つを選んで、書名、著者名、150字以内の推薦文(その本を選んだ理由、贈りたい理由)をお送りください。

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1 親へ贈りたい本        | 2 夫または妻へ贈りたい本        |
| 3 子どもへ贈りたい本      | 4 孫へ、または孫から祖父母へ贈りたい本 |
| 5 恋人、片思いの人へ贈りたい本 | 6 友だち、先輩・後輩へ贈りたい本    |

〔表彰〕各部門大賞者には賞状と図書カード(1万円程度)を贈呈します。

〔応募方法〕応募用紙に記入し、郵送、FAX、メール、県立図書館への持参のいずれかの方法。



山梨県教育庁社会教育課 [高保・有賀・大森]  
〒400-8504 山梨県甲府市丸の内一丁目6-1  
TEL 055(223)1772 [直通] FAX 055(223)1775  
E-mail: shakaikyo@pref.yamanashi.lg.jp  
※詳細はホームページでご確認ください。

# SSH を活かして取り組む理系力の向上と学校の活性化

～巨摩高校スーパーサイエンスハイスクール事業の推進に関して～ **県立巨摩高等学校**

巨摩高校は平成24年度より5年間の計画で文部科学省からSSHに指定されました。「南アルプス発、伝統と最先端の出会い、そして未来へ」をテーマに3年目の活動に取り組んでいます。巨摩高校ではSSH指定を活かして、理系力の向上と学校全体の活性化を推し進めています。

## 1 科学的な課題研究の実践を志向したSS科目の展開

クラス(理数コース)では、従来の科目の枠を超えた巨摩高校独自のSS科目(学校設定科目)を開講しています。

学年	1年	2年	3年
科目	SSガイダンス	SSリテラシー	SSクリエイト
	サイエンスイングリッシュ	SS化学	→
	SS数学I	SS数学II	SS数学特論
	SS物理		→
	SS生物		→
		SSプレゼンテーション	

科目の主な内容は次の通りです。

### \*SSガイダンス・SSリテラシー・SSクリエイト

授業や校外での研修をもとに、課題研究(自分で独自のテーマを設定し、グループ研究をして、発表する)を行います。1年・2年・3年と進むごとにレベルアップし、その研究成果はSSH生徒研究発表会において、ポスターセッションにより発表します。

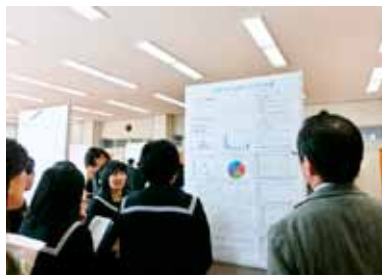


図1：SSH発表会でのポスターセッションの様子

### \*サイエンスイングリッシュ

科学を題材に調べ学習をして英語で発表するなど、科学英語やプレゼンテーション能力の習得のための学習をします。

### \*SSプレゼンテーション

課題研究に必要なPCの操作技術や効果的なプレゼンテーションの手法について学びます。

### \*SS数学・SS物理・SS化学・SS生物

発展的・探究的な内容の学習や、大学や研究機関から講師を招いての出前授業を行います。

## 2 最先端の科学技術に触れる校外研修及び高大連携事業

### (1) 山梨大学との高大連携講座(1年生対象)

山梨大学工学部、生命環境学部との連携協定に基づき、土曜日の午前中に計9回の講座を実施しています。最先端の科学技術について実験等の体験学習を行いながら楽しく学んでいます。



図2：高大連携講座の様子

### (2) 夏季SSH研修

#### ①筑波研修・下田研修(1年生対象)

筑波研究学園都市において、JAXA宇宙センター、理化学研究所等の日本の最先端科学技術を支える施設での研修を行っています。また、筑波大学下田臨海実験センターでは、プランクトン採取実習及び同定、ウニの受精・発生観察実験等の、大学の臨海実習レベルの研修を行っています。



図3：下田臨海実習の様子

### ②東海村研修(2年生対象)

茨城県東海村の原子力科学研究所と那珂核融合研究所で研修を行っています。賛否の分かれている原子力についても研修を積み、知識を深めた上で自分の意見を持てる人材になってほしいと考えています。

### 3 地域との連携を志向した取組 ～わくわくサイエンス in 巨摩高～

SSH事業の成果を地域に波及させるとともに、SSHクラス生(理数コースの生徒)のプレゼンテーション能力の向上を目指して、近隣の小中学生を本校に招いての科学フェア『わくわくサイエンス in 巨摩高』を実施しています。具体的には、手作りスーパーボール、脳の解剖、DNAを取りだそう等の実験を地域の小中学生に体験してもらうものです。平成25年度は児童、生徒、保護者合わせて、約100名の参加をいただきました。



図4：手作りスーパーボールのブースの様子

### 4 南アルプスエコパークとの連携

本年6月、「南アルプス」がユネスコからエコパークに指定されました。「南アルプス」には、自然科学部が「檜形山研究」で輝かしい活動をした歴史があり、本校にとって大変縁の深い場所です。既に、生物地学部(自然科学部を改編)が檜形山トレッキングルート沿いの顕花植物・マンネンスギの個体数調査や、ほたるみ橋公園周辺のホタル再生に向けた取組を進めています。この度のユネスコエコパーク指定を機に、より一層地域と連携し、地域に根ざした活動を強化していきたいと考えています。

### 5 その他の取組

その他の主な事業は以下の通りです。

- 1) SS特別講演会(年2回程度実施)
- 2) 山梨県立科学館実験ブースボランティア
- 3) 日本科学未来館研修

### 6 SSH事業の評価について

本校SSH事業に対しては外部評価機関として設置した運営指導委員会での審議の他、対象生徒にアンケートや基礎力コンテストを実施し、事業の評価と改善を行っています。

いくつかの設問に対するSSHクラス生の回答は以下の通りです。なお( )内は非SSHクラス生の回答です。

	そう思う	どちらでもない	そう思わない
1. 数学の学習はこれからの人生で役に立つと思いますか。	87.2% (57.5%)	10.3% (15.0%)	2.6% (27.5%)
2. 理科の学習はこれからの人生で役に立つと思いますか。	84.6% (50.0%)	12.8% (30.0%)	2.6% (20.0%)
3. 自分が数学を勉強することは他人や世の中のためになると思いますか。	59.0% (30.0%)	30.8% (35.0%)	10.3% (35.0%)
4. 自分が理科を勉強することは他人や世の中のためになると思いますか。	59.0% (30.0%)	30.8% (32.5%)	10.3% (37.5%)

どの質問に対してもSSHクラス生の方が肯定的な回答をしています。SSH活動に取り組むことで、生徒の理数科目に対する学習への認識が、より深められたと考えています。

巨摩高校SSH事業は3年目を迎え、ようやく全ての学年で事業が展開できるようになりました。これまでの実践から明らかになった課題を改善し、より良い事業の推進に努力していきたいと考えています。

今後とも県内SSH校の皆様をはじめ、関係の皆様のご指導、ご協力をお願いいたします。

#### 巨摩高校SSH事業推進部

〒400-0306

南アルプス市小笠原1500-2

TEL055-282-1163

FAX055-282-1104

関連HP→

[http://www.ko.kai.ed.jp/school\\_introduction/ssh.html](http://www.ko.kai.ed.jp/school_introduction/ssh.html)

Click!

## 「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰校の取組」

# キャリア教育に関する研究

県立上野原高等学校

### 1 はじめに

平成24・25年度の2年間、県から「進路指導研究推進校」の指定を受け“キャリア教育に関する研究”を進めました。この実践が評価され、平成26年2月には「キャリア教育優良学校」として、文部科学大臣表彰をいただきました。これまで本校が長年蓄積してきた教育実践を再構築し、新学習指導要領の目指す学力観を取り入れて取り組んだ研究の内容を簡単に紹介します。

### 2 研究実践内容

#### (1) 現状と研究課題設定

本校は昭和54年に普通科高校として開校し、地域の人材育成を目指し、英語科そして理数科の設置を経て、平成23年度に総合学科高校へ改編しました。現在、時代の変化とともに生徒の居住地は県東部地区に広範囲に広がっています。生徒の現状をいくつかの資料から分析し、コミュニケーション能力の育成が欠かせないと判断し、キャリア教育の基礎的汎用的能力を伸ばす取組を始めることにしました。

#### (2) 進学型総合学科高校の柱の充実



1年次職場訪問

本校のキャリア教育の柱として挙げられるのが、1年次で履修する「産業社会と人間」、2年次「総合的な学習の時間」、3年次「課題研究」です。これらは経験的・体験的な授業を通して、現在の社会の状況を知り、自己分析して自己実現の方向性を探り、さらに今の社会の課題を考え解決方法を探っています。

#### (3) 教科、特別活動の取組

##### ①教育課程の工夫

多くの学校設定科目を設定し選択の幅を広げ、少人数の授業によりきめ細かい指導を実

践しています。また、半期科目を設定し、早期に履修を可能にすることを試んでいます。

##### ②教科横断型の授業実践

国語と地歴、英語と理科等で教科横断型の授業を実践し、これまで身につけた知識を他教科に応用し活力の育成につなげています。



化学と英語の教科横断

##### ③言語活動の実践

授業の中でアニメーション、ディベート、意見発表、グループ学習、実験実習等を行い、コミュニケーション・スキルを身につけて、多様な考え方を受け入れ、自らの考えを表現する実践を行っています。

##### ④地域との連携

地域の図書館を介したアニメーションの実施、オープン部活・オープンスクールでの中学生との交流、インターンシップの体験、福祉施設・支援学校との交流、駅周辺の奉仕活動など地域の皆様とのふれあいの中で自分たちの役割を学んでいます。

### 3 成果と課題

2年間各教科でコミュニケーション能力を伸ばすための仕掛けを授業に取り入れ、平成25年度はその評価法として解のない問題を作成し、キャリア教育の基礎的汎用的能力が身についたかの検証を行いました。この研究を通して、職員全体のキャリア教育への意識化が図られ、生徒のコミュニケーション能力を育成する体制が進みました。

今回のキャリア教育実践を元に今後もさらに教育内容を深化させて取り組んでまいりますので、各方面からのご指導・ご意見をお寄せいただきたくお願い申し上げます。

## 「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰校の取組」 地域産業界を担う人材育成の取組

県立谷村工業高等学校

### 1 新たな歩みの始まり

明治29年官制の染色学校として設置され創立119年目を迎える谷村工業高校も今春桂高校と統合となり、新設校の都留興譲館高校に年次進行で生まれ変わります。機械工学、電子工学、制御工学、環境工学の4学科はそのまま、新設校の工業科に引き継がれます。この統合に至る約10年間に地域・産業界との連携、高大連携のほか、様々な形の外部との連携を重ね、その過程での取組がキャリア教育優良学校文部科学大臣表彰につながりました。

### 2 これまでの取組

キャリア教育・職業教育を推進するに当たって、本校は①「基本的生活習慣と人間性の涵養」、②「基礎学力の定着」、③「専門的知識技能の習得」の3点を重点項目に据え、教育活動を展開してきました。特に工業科専門教育については、地域産業の担い手育成のため、各工業科の教育課程の工夫改善につとめ、国家技能検定等の高度資格に挑戦させ、ものづくりコンテスト等各種競技会へも積極的に参加させて、実践的な技術技能の習得を推進しています。



企業現場実習

平成19～21年度、文部科学省「地域産業の担い手育成プロジェクト」及び平成22～24年度、山梨県単独事業「地域連携ものづくり事業」の研究指定を受け、本校と地元企業が連携を図り、(1)実践的技術を習得する生徒の企業現場実習、(2)高度熟練技術者による実践的授業、(3)教員の高度技術習得を目標とした企業研修、(4)企業との共同研

究等に取り組みました。研究過程ではP D C Aサイクル型問題解決能力の醸成と地域産業を担う実践的技術を有する人材育成につとめました。平成23～24年度、国立教育政策研究所教育課程研究センターから教育課程指定校事業の委託を受け、研究主題を『山梨県富士北麓・東部の地域産業を担う人材育成』に設定して研究を行いました。具体的には(1)地域産業界等との連携、(2)交流による実践的教育、(3)外部人材を活用した授業内容の工夫と改善、(4)実践力・コミュニケーション力・社会への適応能力等の育成、に各工業科の実習や課題研究等において取り組み、その学習内容やテーマ及び評価の研究を行いました。

### 3 成果と課題

学校教育においては各分掌の取組が生徒の諸能力の伸長に効果的に反映され相応の成果を上げることが期待されます。

今回それまで重点的に指導されていた、本校キャリア教育の内容を先の3つに整理したことで、各分掌間・教師間の共通理解が図られ、学校全体で取り組むべき方向性が確認できました。また地元企業の要望から、より高度な専門技術を身に付けた実践的中堅技術者育成のため、平成25年に本校と隣接して山梨県立産業技術短期大学校都留キャンパスが開校となり、カリキュラム連携や人的・設備的活用、優先入学制度に関して高大連携協定を結び、国立高専と同等のものづくり人材の育成を目指しています。さらに非常時に地域住民と生徒達が連携するための災害ボランティア教室の開催、都留市活性化事業「リツール」への参画他、多くの連携が実施されています。

今後も、各教師がキャリア教育・職業教育の視点から、それぞれの授業を見直しながら授業実践を進め、企業、地域住民、関係機関と連携を深めながら次世代の地域産業界を担う人材育成に継続して取り組むことが期待され、そして新設となった都留興譲館高校へと綿綿と受け継がれていくことが望まれています。



# レクで学校丸ごと元気アップ事業 ～「遊ぼうよ」、さそえばできる笑顔の輪～

## スポーツ健康課

### 1 はじめに

本県の子どもたちの体力の現状は、概ね低下傾向に歯止めがかかっているものの、積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が進んでおり、全国的にはまだ低い水準にあります。

このため、県教委では、学校だけでなく家庭や地域が一体となって、「遊び」を通して運動の習慣化を図りながら、体力の向上を目指すことを目的に、昨年度より、本事業を進めています。昨年度の取組についてはDVDにまとめ、4月に県内全市町村及び小中学校に配布しました。

### 2 事業の概要

○ 県教委、山梨大学、日本レクリエーション協会等による「コンソーシアム」が取組の骨子を企画し、それをもとに、地域スポーツ関係団体や県内の山梨大・県立大・都留文科大・山梨学院大と連携・協働し、モデル校での具体的な取組を展開していきます。

モデル校での成果や課題は、各種研修会等で発表し、県内の各学校への普及を図っていきます。

※本年度のモデル校（9校）

武川小 白州小 大藤小 七保小 新田小  
谷村第二小 一宮北小 敷島北小 若草中

○ プレイリーダー養成のための研修会

本年度の新たな取組として、大学生を中心とした、遊びを指導する「プレイリーダー養成研修会」を6月3日に実施しました。当日は学生だけでなく、地域のスポーツ推進委員や教員も参加し、リーダーとしての心得を学びました。また、8月18～20日には、養成研修を受けた学生が講師となり、協力大学の学生やモデル校の関係者を対象に、「プレイリーダー運動遊び楽習会」を行い、モデル校で実際に活用する「遊び」の指導法などを研修しました。



日本レク協会の講師からプレイリーダーの心得を学ぶ



※活用する主な(昔)遊び

Sケン、ゴムダン、テンカボール、リバーシ、やじるべえ、ナンバーツジボール、天大中小、門番じゃんけん、ケンケン 等

(具体的な遊びの中身についてはスポーツ健康課にお問い合わせください)

### 3 モデル校での主な取組内容

(1) あそび発見市（遊び紹介）

各学校の業前・業間活動で取り組む遊びの内容について、大学生のプレイリーダーが、子どもや教員に紹介しながら、実際に遊びを体験します。それと並行して、保護者や地域の方々を対象に、セミナーを行い、子どもの体力や遊びの大切さについての理解を深めていきます。

(2) 元気アップタイム（業前・業間活動）

業前・業間活動（週1回程度）の時間帯に、学生や地域の指導者によるプレイリーダーが、「あそび発見市」で学んだ遊びを使って、子どもたちとともに遊びます。この取組を通して、運動の習慣化を図っていくとともに、コミュニケーション能力等の育成や、地域や家庭とのつながりを深めていきます



プレイリーダーや地域の方々とともに



指導主事による、保護者向けのセミナーの様子

### 4 今後の展開

昨年度から継続のモデル校では、地域の協力者が、学校との良好な関係を築き、子どもたちと自然に溶け込み、遊びに親しむ姿が見られています。

今年度は、中学校において、遊びの要素を取り入れた取組にトライするとともに、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機にトップアスリートを招いて、一緒にふれあう機会を通して運動への興味・関心を高める取組も企画しています。

今後は、県内の各学校において、本事業を参考に「健康体力づくり一校一実践運動」の一環として、地域と連携した日常的な取組に発展・定着していくことを願っています。



白州小「あそび発見市」より

# 身近な地域スポーツ促進事業 ～スポーツ JanJan～

## スポーツ健康課

### 1 新たな歩みの始まり

県民の健康で豊かな生活、地域社会の活性化を目指す「やまなしスポーツ」の創出を基本理念とし、山梨県教育委員会では平成26年2月に「やまなしスポーツ推進プログラム」を策定しました。このプログラムでは、

1. ライフステージ（各年代）に応じた健康の保持増進・スポーツの推進。
2. 競技スポーツの推進。
3. スポーツ界の好循環の創出。

を基本方策として定め、平成26年～平成30年の5年間で実現を目指しています。

本県では、1年に1度もスポーツ（身体活動）を行わない人の割合（スポーツ未実施率）が、40.5%にも昇り、全国平均（19.1%）ではスポーツ未実施率が下がっているにもかかわらず、山梨県の未実施率は反対に上昇しています。そこで、山梨県民の皆様が、日々の生活の中で、少しでも身体活動を行えるよう、山梨県教育委員会では「身近なスポーツ活動」を推奨し、平成30年までに未実施率を20%までに縮減することを目標としました。

### 2 事業の概要

運動未実施率の縮減を目指すためには、市町村と地域スポーツ指導者が連携協働し取り組む事が不可欠であるため、県では「山梨県地域スポーツ推進協議会」を立ち上げ、スポーツ推進委員や体育協会関係者など、地域スポーツ委員として57名を委嘱し、地域の実情に応じたスポーツ活動の実施に向け、トライしていきます。



委嘱状交付式の様子

### 3 「身近なスポーツ活動」とは

簡単な競技性やゲーム性のある運動の他に、ウォーキング（散歩）やジョギング、健康体操、レクリエーション、遊びなども含め、広くとらえた身体活動のことです。地域スポーツ委員が各地域に出向き、地域の方々と運動に親しみ、よい汗を皆さんで流して頂くと共に会話を楽しみ、笑顔で地域を活性化させたいと考えています。啓発リーフレットを、各市町

村教育委員会をはじめ、各スポーツ関係者に配布させていただきました



啓発リーフレット

ので、是非ご覧ください。

### 4 県内での取り組み例

#### (1) 市川三郷町

温泉施設で、健康づくりイベント、スポーツ施設ではヨガやラジオ体操に親しみ、地域住民の笑顔が溢れています。



#### (2) 昭和町

総合型地域スポーツクラブと連携して、ラジオ体操や工夫を凝らしたウォーキングを行っています。



#### (3) 甲斐市

「ラジオ体操のまち」をスローガンに、自宅で、学校で、職場で市民みんなが取り組んでいます。



#### (4) 富士吉田市

富士吉田体育協会主催による市民総参加のラジオ体操を、市内7小学校を会場に実施し、市民の健康増進と地域の集いの場になっています。



### 5 今後の展開

山梨県地域スポーツ推進協議会では、この身近なスポーツ活動を充実発展させていくために、実践活動の情報提供や研究を重ね、運動の未実施率の縮減を図ることはもとより、東京オリンピック・パラリンピック開催決定を契機に、地域のコミュニティが積極的に日常生活に運動を取り入れ、スポーツへの関心が高まることを期待しています。

## 博学連携の取り組み ～文学館の取り組み～

### 県立文学館

- 学習指導要領に、地域博物館の積極的な利用が明記されました。博学連携の期待が高まる中、文学館では館のもつ情報をより活用しやすい形で各学校へ提供したいと取り組んでいます。文学館の人材と学習資料の活用は「学びの多様性」を広げ、大きな教育効果を生み出すことでしょう。

#### 1 リーディングシアター

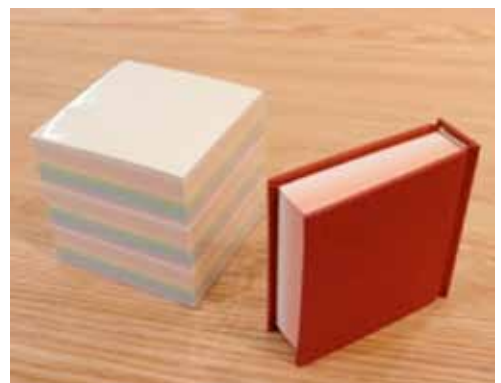
文学作品の朗読など、各学校で取り組んでいる言語活動に発表の場を提供しようと進めてきた「リーディングシアター」は、今年3年目を迎えます。文学館講堂の本格的な舞台に立った参加者は「緊張したけど楽しかった。満足です。」と大きな達成感を味わったようです。保護者の皆様からは「練習を通じて、我が子の成長を感じた。」「子どものよさが伝わってきた。」と喜びの声を、指導していただいた先生方からは「目標を発表会に置くことで、授業の幅が広がった。」と嬉しい感想をいただいています。高校生の模範朗読を聞いた参加者はその力の高さに驚き、「いつかこんなふうに発表できるようになりたい。」と目標を掲げました。小・中学生の発表に高校生が手本を示し、全体を大学生が運営補助として活躍するなど、異校種間交流も大きな成果を生み出しました。



高校生の模範朗読を聞いた参加者はその力の高さに驚き、「いつかこんなふうに発表できるようになりたい。」と目標を掲げました。小・中学生の発表に高校生が手本を示し、全体を大学生が運営補助として活躍するなど、異校種間交流も大きな成果を生み出しました。

#### 2 各種ワークショップ

各界で活躍する先生方に直接解説・指導をいただけるワークショップは、文学館の普及活動の中でも人気のある企画です。今年度は「村岡花子展」に関連した「アンの寄せ植え教室」（県立農林高校望月優先生）、「アンのお料理教室」（元栄養士浅野公子先生）、「英語劇体験」（マーブルズ小口真澄先生）など、『赤毛のアン』の物語の中から取り出した場面を直接体験し、作品に対する関心を深めました。また、装幀に注目した特設展「本のおしゃれ」に関連した「製本ワークショップ」（美篤堂上島明子先生）、日本の伝統的な言語文化に触れる「江戸の売り声を体験しよう！！」（和風漫談家宮田章司先生）、「からくり屏風を作ろう」（片岡屏風店片岡恭一先生）と内容もバラエティーに富み、参加者から大好評でした。できあがった作品を大事に持ち帰る姿が印象的です。



### 3 新田小学校の取り組み

新田小学校は文学館に近いため、継続的な活用が実現しています。教育課程には年間を通じて、各学年に応じたプログラムを位置づけていただいています。たとえば、初めて文学館を使い始める3年生には茶道体験。素心会の皆様の手ほどきを受け、本格的なお手前でお茶をいただきます。



4年生以上は各学期に1回以上文学館に来て文学講座を受けます。平成24年度、25年度には、6年生が常設展示室で展示されている作家について調べ、解説のキャプション作りに取り組みました。できあがったキャプションは、「こどもキャプション」と名付けて期間を限定し、実際に展示ケースに入れ、来館者に見ていただきました。

### 4 出前授業をしています

各学校の教育ニーズに応じて、文学館職員がより効果的な授業を組み立てます。今年度は石和中学校より「俳句の鑑賞の視点を与えたい。楽しく印象的な授業をして欲しい。」とご相談がありました。そこで1年生全員を対象に「ミニ俳句甲子園」を実施しました。各クラスで国語の時間に作った俳句からクラスの代表句を選び、クラス対抗で俳句の出来を競います。応援スピーチにも力が入る中、いよいよ判定へ。ジャッジは生徒全員で行います。始めに文学館から与えた「俳句を鑑賞する視点」を使い、よりよい俳句を選んで一票投じます。対戦の回が進むうちに、鑑賞する力が伸びていく様子が伝わりました。「来年は勝てる俳句を作ります」と感想を寄せてくれた生徒は、その後も俳句作りに取り組んでいるそうです。

### 5 アウトリーチ（移動文学館）



石川啄木の等身大人形でおなじみのアウトリーチ（移動文学館）に、今年度は新しい仲間が増えました。山梨県を代表する俳人「飯田蛇笏・龍太のちまちな人形セット」です。15センチメートル程度の小さな人形は、北海道のイラストレーター高山美香さんの作品。子どもたちにとって難しい印象をもたれがちな俳句の世界ですが、お二人の人形でぐっと親しみを増し、俳句に興味を持った生徒さんもいるようです。7月に貸し出しをした富士河口湖高校では、3年生の国語表現や1年生の国語総合で人形を使った授業を実践していただきました。ご希望があれば資料をお届けします。

# 「わたしらしさ」を応援します ～相談支援部における相談業務について～

**総合教育センター 相談支援部**

総合教育センター相談支援部は、平成22年4月に、それまであった「教育相談部」と「特別支援教育部」が統合して新しい体制となり、5年目を迎えました。

現在は、「教育相談担当」「特別支援教育担当」「適応指導教室」が相互に連携しながら、学校生活に困難を抱えている児童生徒やその家族、学校に対して、相談・支援を行っています。ここでは、それぞれが行っている相談業務について紹介しますので、ご活用ください。

## 教育相談担当

いじめ・不登校などをはじめとする、学校生活や家庭生活の悩み事、困っていることについて電話や面接での相談を行っています。

○電話相談 **055-263-3711**

＜いじめ・不登校ホットライン＞

365日・24時間体制で、専門の電話相談員が対応します。

○面接相談 ＊電話での予約が必要です。

本センターの研修主事が、対応します。

＜対象＞ 児童生徒 保護者 教職員

＜相談日＞ 平日 午前9時～午後5時

＊面接の予約は、電話相談の電話番号へ



## 特別支援教育担当

障害のある児童生徒の就学や転入学、学校生活における適切な支援の在り方について、相談・支援を行っています。

○電話相談 **055-263-4606**

＜相談日＞ 平日 午前9時～午後5時

○来所相談 ＊電話での予約が必要です。

＜相談日＞ 平日 午前9時～午後5時

- ・就学・転入学に関する相談・検査
- ・学校生活における適切な支援の在り方についての相談・検査

・「教育相談における所見」の発行

○訪問相談 ＊学校からの依頼文が必要

・学校に出向いて、支援の方法を検討します。

○巡回相談の申込み・受付

・特別支援教育担当にお問い合わせください。

### “わたしらしさ”を応援します

山梨県総合教育センター 相談支援部

---

**教育相談**

私たちは、いばまさに、困難や悩みの中にいるあなたを応援します。

誰かに、あなたの話を聞いてもらって、ホッとすることはありませんか？  
誰かに悩みを話しているうちに、どうしたらよいのか、自分で気づいたことはありませんか？

答えはみんな、あなたの中にあります。あなたらしいやり方で困難や悩みに向き合えるように、私たちはお手伝いしたいと考えています。

学校に行きたくても行けない、学校に行く気持ちがおこらなくなってしまった、友だちや先生とうまく関わることでできない、思ひみでぶつかり合いになってしまった、そんなときに私たちに相談してみてください、いっしょに考えましょう。

<p><b>面接相談</b></p> <p>本人・保護者の方などに教育相談室にいらしていただき、相談員とカウンセリングを行います。</p> <p>相談日 平日 相談時間 午前9時～午後5時</p> <p>※事前に電話で日時をご予約ください 電話：065-263-3711</p>	<p><b>電話相談</b></p> <p>いじめ・不登校 ホットライン</p> <p>あんない 電話：055-263-3711 電話で専門の相談員がお話をうかがいます。</p> <p>相談時間 通年365日 24時間いつでも</p>
---	---

---

**特別支援教育** お子さんの発達に関する相談はこちらへ・・・

- ・関わり方や支援方法に関すること
- ・特別支援学校への入学・転学、特別支援学校への入籍に関すること
- ・他の相談機関の紹介等

電話相談：055-263-4606  
来所相談：電話での予約が必須です。  
相談時間：平日 午前9時～午後5時

＜教育相談の案内＞

4月に学校を通じて、家庭に配付しました。

## こすもす教室（適応指導教室）

不登校に陥っている児童生徒の支援のために、石和・韮崎・都留にこすもす教室を開設しています。各教室では、心の居場所づくりを第一に考え、一人一人の実態やニーズに応じた学習支援、体験活動、教育相談を行っています。

○教育相談 ＊随時

児童生徒・保護者に対する面接相談

＜石和＞ 055-261-1271

＜韮崎＞ 0551-22-1133

＜都留＞ 0554-45-1161

＊詳しくは、各教室にお問い合わせください。または、総合教育センター相談支援部ホームページを御覧ください。  
[http://www.ypec.ed.jp/htdocs/?page\\_id=18](http://www.ypec.ed.jp/htdocs/?page_id=18)

Click!

## 地域と共に育てる南小

### 市川三郷町立市川南小学校

本校は、地域との絆が強く、今年度も年間を通して地域の方々から学校への協力や支援をいただいています。一例として、里芋の植え付け・サツマイモのうね作りとマルチをかける作業・田植え等の農業体験指導、朝活動で行っている読み聞かせの読書ボランティア、紙すき体験・紙工作・短歌・歌唱等の文化的指導など多くの活動に地域の方々のご尽力くださり、関わりを深めています。これらの子供たちの体験活動や地域の方々とのつながりは本校の特色の一つになっています。

子供の成長過程において、さまざまな体験や経験が心の成長に大きな影響を及ぼすと言われていています。わくわくどきどきする体験を学校関係者はもとより、大勢の人々と関わりながら、共に子供たちが経験していけたらと考えています。さらには、豊かな自然の中で文化や歴史を学び、我が町、我がふるさとをいつまでも誇りに思える教育をこれからも地域の方々と共に実践していきたいと考えています。



地域の方々と里芋の植え付け（4年生）



すずかけお話の会会員による読み聞かせ

## 地域に根ざす教育活動 ～創作劇「巖道峠（がんどうとうげ）」を通して地域を見つめる～

### 道志村立道志中学校

本校では、学園祭において道志村の昔の生活を劇にした創作劇「巖道峠」に取り組んでいます。もとなる教育実践は、道志小学校久保分校で昭和57年（1982年）から平成10年（1998年）に分校が閉校になるまでの17年間続きました。その実践は創作劇「巖道峠」（第1作～第8作）として残されています。その後は、第8作までの脚本をアレンジして取り組んできました。

創作劇の活動を、地域調べや農作物作りなどの教育活動の一部に位置付け、地域理解と表現力等の向上を目指しています。この実践は、地域住民にも根付き、地区全体で支えられています。子供たちにとって、地域を知ることができ、地域住民との交流を深める貴重な活動となっています。また、表現力も身に付くなど、様々な教育効果をもたらしています。



創作劇「巖道峠」の一場面



道志中校舎と周り山々

## やまなしの戦後美術－四人の革新者たち

橋田尚之 松田富彌 河内成幸 深沢軍治

平成26年9月20日(土)～11月3日(月・祝) 開催

県立美術館

### 1 開催趣旨

本展は、意欲的に作品制作と発表を続けてきた山梨ゆかりの現代作家たち四人に焦点を当てた展覧会です。橋田尚之氏(1947年～)は、東京藝術大学を卒業し、すぐに作家活動を始めました。アルミを素材とした立体造形で評価を得ましたが、近年は平面作品の制作にも取り組んでいます。松田富彌氏(1939年～2009年)は、京都市立芸術大学で富本憲吉のもとで学びました。後に山梨県に移住して、数々の個性的な作品を残しました。河内成幸氏(1948年～)は、多摩美術大学油画科在学中に日本版画協会展で新人賞を受賞します。その後は、日本の現代木版画を代表する作家として活躍しています。深沢軍治氏(1943年～)は、東京藝術大学時代に油彩画以外に木版画も学びました。以降、さまざまな実験的絵画表現への挑戦を繰り返し行っています。本展では、彼ら四人の初期作品から近作・新作までを個展形式で展示し、革新的な表現に到達したそれぞれの独自世界をご紹介します。



河内成幸《クリスタル北斎(II-B)》  
2012年 木版凸凹摺り  
91.5×125.5cm



松田富彌《雲とともに》  
2003年 陶 46.5×28.5×9.5cm



橋田尚之《登攀者 2014》  
2014年  
酸化被膜したアルミニウム、コンテ  
約300×200×400cm



深沢軍治《庭先植物生態学D・冬》  
1984年 油彩・麻布  
162.5×194.0cm

### 2 関連イベント

- 講演会「やまなしの戦後美術と四人の革新者たち」(講師：向山富士雄(当館学芸課長))
  - ・日時：10月4日(土) 午後2:00～(申し込み不要、聴講無料)
- 美術体験・実技講座
  - ①現代美術「林檎は2度おいしい」(指導作家：橋田尚之氏)
    - ・期間：9月20日(土)～27日(土)(要申し込み)
  - ②木版画(指導作家：河内成幸氏)
    - ・期間：10月12日(日)～26日(日)(要申し込み) ※初心者は初心者講座(9月14日)を受講して下さい。
  - ③現代美術「観て描くコトと見ないコト」(指導作家：深沢軍治氏)
    - ・日時：11月1日(土)、2日(日) 午前10:00～午後4:00(2日連続)(要申し込み)
- キッズプログラム「ふわふわギザギザ 五感で味わう不思議な私たち」(講師：松田百合子氏(陶芸作家))
  - ・日時：10月25日(土) ①午前10:00～11:30(中学生)(要申し込み)  
②午後2:00～3:30(小学生)(要申し込み)
- 特別展「やまなしの戦後美術 四人の革新者たち」記念コンサート(出演：NYT)
  - ・日時：平成26年10月12日(日) 午後2:00～2:40(申し込み不要)

### やまなしの戦後美術－四人の革新者たち

日時：平成26年9月20日(土)～平成26年11月3日(月・祝)

休館日：9月24日(水)、29日(月)、10月6日(月)、14日(火)

観覧料：一般1000(840)円 大学生500(420)円 ※ ( )内は20名以上の団体料金

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒は無料

問い合わせ先：TEL055-228-3322

関連HP：<http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## 大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角

平成26年11月15日(土)～平成27年1月18日(日) 開催 県立美術館

### 1 開催趣旨

30歳の若さで夭折した天才画家、佐伯祐三（1898～1928）の、短くも鮮烈な画業を回顧します。

佐伯は、東京美術学校を卒業した後にフランスに渡りました。フォーヴィスムの大家ヴラマンクに「アカデミック！」と作品を批判されたことをきっかけに、自らの作風を模索し始め、パリの石造りの建物やポスターが貼られた壁にモチーフを見出し、独自の様式を確立しました。

本展では、フランス滞在中に制作された作品を中心に、初期作品、日本に一時帰国していた時期の作品など、佐伯の生涯の画業を辿ります。加えて、佐伯と交流のあった同時代の画家の作品や当時のパリの雰囲気伝えるポスターを展示し、佐伯が魅せられた芸術の都パリの息吹を紹介します。

### 2 関連イベント

#### ◇記念講演会「パリ時代の佐伯祐三」

11月29日(土) 14:00～

講師 高柳有紀子氏（大阪新美術館建設準備室学芸員）

#### ◇創作教室「ダンボールをつかってパリの街をつくろう」

12月7日(日) 10:00～12:00

13:30～15:30

講師 三井正人氏（彫刻家）と帝京学園短期大学学生

対象 小学生以上（低学年は保護者同伴）から大人まで

定員各回30名 参加無料、申し込みが必要

#### ◇キッズ・プログラム「パリの街並み探検」

親子でパリの街並み鑑賞とクリスマスオーナメント作り

12月20日(土) 13:30～15:30

対象 小学1～6年生とその保護者

定員30名、参加無料、申し込みが必要

このほか、館長トーク「佐伯祐三のいたパリ アールデコの時代」(11/16)、

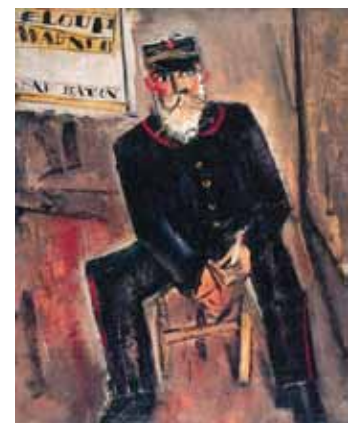
彫刻家・三井正人氏による大人のための美術講座(12/14)、

記念コンサート(11/30)も開催します。

詳細は、HPもしくは美術館までお問い合わせください。



《レストラン(オテル・デュ・マルシェ)》1927年  
大阪新美術館建設準備室蔵



《郵便配達夫》1928年  
大阪新美術館建設準備室蔵

## 大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角

日時：平成26年11月15日(土)～平成27年1月18日(日)

休館日：11月25日(火)、12月1日(月)、8日(月)、15日(月)、22日(月)、

27日(土)～1月1日(木)、5日(月)、13日(火)

観覧料：一般1000(840)円 大学生500(420)円 ※ ( )内は20名以上の団体料金

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒は無料

問い合わせ先：TEL055-228-3322

関連HP：<http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!



## 企画展「谷崎潤一郎展 文豪に出会う」

9月27日(土)～11月24日(月・振休)開催

県立文学館

### 1 文豪・谷崎潤一郎の生涯

谷崎潤一郎(1886～1965 東京生まれ)は、幼い頃から秀才ぶりを発揮し、家業が傾く中、進学を断念しようとするのですが、その才能を惜しむ周囲の助力もあり、1908(明治41)年に東京帝国大学国文科に入学します。在学中、同人雑誌第2次「新思潮」を友人たちと発行し、その後発表した「刺青」「麒麟」などの作品を、永井荷風が激賞します。そして1911年、文壇の登竜門である「中央公論」に「秘密」を発表し、華々しくデビューしました。



1949年頃の谷崎  
写真提供 谷崎潤一郎記念館

1923(大正12)年9月1日の関東大震災を機に関西に移住し、「春琴抄」「吉野葛」など古典主義的な作品を発表するようになりました。

1938(昭和13)年には「源氏物語」の現代語訳を完成させ、その翌年から「細雪」を書き始めます。「細雪」は、1943年に「中央公論」へ2回掲載された後、軍部の弾圧で連載中止となりますが、執筆は続けられ終戦をはさんだ8年の歳月をかけ完成に至った作品です。戦後も旺盛な創作力は衰えることなく、「鍵」「癡癡老人日記」などで話題を集めました。

本展では、原稿、書簡、書画など約120点の資料により、谷崎潤一郎の生涯と豊穡な作品世界に迫ります。

### 2 「細雪」に描かれた河口湖

谷崎の代表作の一つ「細雪」は、大阪船場の旧家・<sup>まきあか</sup>時岡家の四人姉妹、鶴子、幸子、雪子、妙子の繰り広げる物語です。三女雪子への縁談話に、次女幸子が奔走する経過を軸に、一方で四女妙子が再三にわたり恋愛事件を起こし、姉たちをわずらわせる様子が語られます。



谷崎潤一郎 渡辺重子宛葉書  
1942年9月26日消印 当館蔵

『細雪』下巻には、貞之助・幸子夫妻が河口湖畔に滞在する場面が、清新な湖畔の風景とともに描かれています。谷崎自身、1942(昭和17)年に松子夫人とともに河口湖畔の富士ビューホテルに滞在しました。そこから松子夫人の妹・重子に宛てて、夫妻のその後の予定を知らせる富士山の絵葉書が残っています(写真)。1996(平成8)年には、富士ビューホテルに近い河口湖畔に「細雪」の一節を刻んだ谷崎の文学碑が建てられました。

展示では『細雪』下巻の河口湖滞在場面の原稿や、戦中に自費出版で200部だけ刊行され、後の改訂のために谷崎が書き込みをした『細雪』上巻私家版など、「細雪」に関わる直筆資料をご覧ください。

### 企画展「谷崎潤一郎展 文豪に出会う」

日時：平成26年9月27日(土)～11月24日(月)

休館日：9月29日(月)、10月6日(月)、14日(火)、11月4日(火)、10日(月)

開館時間：展示室 午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで)

閲覧室 午前9時～午後7時(土・日・祝日は午後6時まで)

場所：山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35

企画展観覧料：一般600(480)円 大学生400(320)円 ※( )内は20名以上の団体料金

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童・生徒は無料

問い合わせ先：TEL 055-235-8080

関連HP：<http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## 第32回特別展

# 「掘り起こされた音の形 —まつりと音具の世界—」を開催します

県立考古博物館

### 内 容



しちれいきょう  
七鈴鏡 三方原学園内4号墳  
浜松市博物館

現代人は日々の生活の中で「音」を楽しみ、「音」に囲まれて生きています。一方古代の人々にとっては、「音」は楽しむというよりも神や異界と交流するための道具でした。静寂の中に「音」を求め、吹く、弾く、たたく、振るなどの行為によって「音」を生み出していたのです。

古代人の精神文化の一つである「まつり」では「音」を生み出す道具「音具」がつかわれ、さまざまな願いや祈りが込められていました。また、生活を共にする動物が身につけた道具にも、そうした「音具」を見ることができます。

今回の特別展は遺跡から発掘された遺物の中で、音を発することを目的に製作された製品などを出品し、当時の人々の音との関わり方を想像できるような展示を行います。また模造品による体験コーナーを設けて、より身近に感じられる空間を作り音具の世界を紹介します。

古代の楽器や音を発する道具、また“音の展示”をみて、太古の音の世界に思いを巡らしてみませんか。

### みどころ

祭祀具として使われた鏡に「音」を出す鈴のついた「七鈴鏡」や、琴を弾く人物の様子をあらわした弾琴埴輪などのほか、縄文時代から江戸時代までの考古資料を県内外からあつめ、「音具」の歴史や魅力、「音具」が作られた背景を紹介します。また、この特別展にあわせて様々な関連イベントを行います。古代人と音具の関わり合いについて一層の興味関心を高め、親しみ、身近に感じられる機会です。ぜひ考古博物館へお越しください。



だんきんばわ  
弾琴埴輪 (白山古墳群 17号墳)  
深谷市教育委員会(市指定文化財)

開催期間：平成26年10月8日(水)～11月24日(月)  
時 間：9：00～17：00 (入館は16：30まで)  
休 館 日：毎週月曜(10月13日・11月3日[月・祝日]は開館)  
臨時開館：10月14日(火)・11月4日(火)

会 場：考古博物館展示室

入 館 料：大学生・一般 600円(常設展とのセット割引料金有)、団体(20名以上)480円  
小・中・高校生・県内在住の65歳以上無料(要証明書) ※常設展は別途観覧料が必要

### 関 連 イ ベ ント

ものづくり教室	「青銅器作り」	9月13日(土)・28日(日) (16歳以上)
	「口琴(ムックリ)作り」	10月12日(日)
チャレンジ博物館	「弥生時代の笛づくりにチャレンジ」	10月5日(日) (小・中・親子向け)
	「弥生時代の琴づくりにチャレンジ」	10月19日(日) ( “ )
	「小銅鐸づくりにチャレンジ」	11月2日(日) ( “ )
考古博物館の日	「チャレンジ演奏会・収穫祭」	10月26日(日)
特別展記念講演会	「考古学で聴く太古の音」	11月2日(日)
特別展記念	古代琴「古代への道」お話しと演奏	11月9日(日)

### 第12回「私たちの研究室」作品募集中!

募集期間：平成26年9月2日(火)～平成26年11月30日(日)

提出・問い合わせ先：県立考古博物館 学芸課 TEL 055-266-3881

FAX 055-266-3882

HP：<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

## 秋期企画展 「甲斐の黒駒～歴史を動かした馬たち～」

県立博物館

### 1. 甲斐国は名馬の産地

山梨と馬。あまり結びつかないかもしれませんが、実は山梨は1000年以上前に都にまでその名をとどろかせた名馬「甲斐の黒駒」を生み出した馬産地でした。本展では1500年以上に及ぶ山梨の人と馬の深い関わりの歴史をご紹介します。



「黒駒太子像」(部分・当館蔵)

### 2. 名馬のブランド「甲斐の黒駒」

大陸からもたらされた馬が山梨に到達したのは古墳時代の中頃(4世紀末)と考えられています。古墳から出土する馬の骨や黄金の馬具は、馬が当時の権力者にとって最先端の兵器であり、ステータスシンボルであったことを示します。



奈良県藤ノ木古墳から出土した  
金銅製馬具(文化庁蔵・国宝)

奈良・平安時代になると、山梨には朝廷直轄の牧場(御牧)が置かれます。峡北地域にあったとされる3つの御牧から毎年60頭の馬が都に献上されていました。聖徳太子が甲斐国から献上された黒駒にまたがると、空に舞い上がり、富士山へ飛んで帰ってきた、との伝説が生まれたのもこの頃です。

### 3. 実はポニーだった? 武田騎馬隊

戦国最強といわれた武田騎馬隊も以上のような馬産地としての歴史の上に生まれました。映画やテレビで目にする迫力ある大型馬とは異なり、発掘された馬骨から復元される戦国の馬はポニーと呼ばれるサイズです。しかし、こうした小型馬が当時の戦場の主役でした。



騎馬武者模型(馬の博物館蔵)

### 4. 歴史を動かした馬

現在では牧場や競馬で目にする程度で、多くの人々には無縁な存在となってしまった馬ですが、かつては強力な兵器であり、高速通信手段であり、権力と富の象徴でした。今では想像するのも難しいですが、山梨の歴史において果たしたその役割の大きさを知れば、きっと新鮮な驚きがあることでしょう。

### 平成26年度秋期企画展「甲斐の黒駒～歴史を動かした馬たち～」

日時:平成26年10月11日(土)～平成26年12月1日(月)

休館日:毎週火曜日

観覧料:一般500円、大学生250円 小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料

問い合わせ先:県立博物館 TEL055-261-2631

関連 HP : <http://www.museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

学術文化財課

### 韮崎市民俗資料館（韮崎市藤井町）

私たちの何気ない生活のひとつひとつは、先人の知恵の結晶です。しかし、現代の生活は急速に変化し、過去の暮らしの様子が忘れ去られてしまうことも多くあります。人々の暮らしの息吹を後世に伝えていくため、韮崎市では昭和55年に民俗資料館を建設しました。館内には、衣食住に関わる「生活遺産」と呼ぶべき品々が展示されています。旧石器時代のナイフ形石器から昭和40年代のテレビまで、韮崎市の二万年がここに詰まっています。

館の隣には、豪商・小野家の蔵座敷が移築されています。富士身延鉄道（JR身延線の前身）を設立した小野金六の生家であり、NHKドラマ『花子とアン』の撮影に使

われました。

外観は重厚な蔵ですが、一階は華やかな座敷になっています。書院障子の透かし彫りや大正初期のアンティークライトなど、室内の装飾も見所です。

住所：韮崎市藤井町南下條786-3

電話番号：0551-22-1696

休館日：月曜日と祝日の翌日、木曜日の午前中

開館時間：9:00～16:30

入館料：無料

URL：<http://niramin01.blog43.fc2.com/>

Click!



民俗資料館外観



蔵座敷外観



蔵座敷の内部

## 山梨の文化財

学術文化財課

### 県指定有形文化財（絵画）

絹本着色不動明王像 一幅

附紙本着色不動明王像 横田汝圭筆 一幅（甲州市 大善寺）

平成25年7月11日指定

本図は、平安時代後期（12世紀）に制作されたと考えられ、縦445.6センチメートル、横339.8センチメートルの稀にみる大変大きな不動明王の独尊像を描いたものです。画面全体に損傷を受けているのが惜しまれますが、鎌倉時代の嘉元4年（1306）から江戸時代の延享5年（1748）までの間に4度の修理が行われたことが、画面裏の修理銘によって確認することができます。

著色の不動明王画像では11世紀に描かれ、通称「青不動」と呼ばれている青蓮院門跡（京都府）の国宝「絹本着色青不動明王二童子像」が最古で、日本三不動画〔他に高野山の赤不動（和歌山県）、三井寺の黄不動（滋賀県）〕の1つとして有名です。本図には「青不動」と同じく岩座の下辺や周辺に水波や海波が描かれておらず、古い形式を留めるものです。

これだけの大きさのものが誰を施主として、何を契機として描かれたかは不明ですが、度々修復され、現在まで奇跡的に残り伝えられてきたというだけでも歴史的に貴重な作品です。加えて、県下のみならず他に類をみない大きさと古い形式をあわせもつ価値の高い不動明王像でもあります。

なお、本図を江戸時代の文化4年（1807）に横田汝圭が原寸大で写した復元模写は、本図の大要を知る手がかりとなり、「江戸仏画」の遺例としても貴重であり、附として本図と合わせ保存を図るべきものです。

両図とも現在、山梨県立博物館に寄託されています。



絹本着色不動明王像



附紙本着色不動明王像



# 平成26年度インターハイ閉幕

## ～大会を支えた生徒の取り組み～

全国高校総体推進室

本県を含む1都3県で7月26日(火)から開催したインターハイが8月20日(水)に閉幕しました。県内では、7月30日(水)から8月9日(土)までの11日間にわたって陸上競技やサッカー(男子)など8競技を開催し、無事終了することができました。大会を支えた高校生の取り組みの様子を振り返ります。

### 1 一斉環境美化活動の実施

7月26日(土)に、会場に訪れる多くの方々を気持ちよい環境で迎え入れるため、小瀬スポーツ公園等の各競技会場周辺で、県生徒実践委員会の各競技別分科会に所属する甲府南高校やろう学校など42校の生徒約200人が、ごみ拾い等の一斉環境美化活動を行いました。

### 2 応援のぼり旗の作製・設置

各都道府県の代表選手を激励し、来県者を温かく歓迎するため、県生徒実践委員会の各競技別分科会では、全国47都道府県それぞれのにぼり旗に応援メッセージを書き入れて、競技会場へ設置したり参加校へ贈るなどしました。

### 3 総合案内所の作製・運営

7月27日(日)に、県生徒実践委員会おもてなし分科会の峡南高校生が、各競技会場へのアクセスの拠点となる甲府駅に総合案内所ブースを設営しました。峡南高校では、今年5月から製作に取りかかり、学校周辺の流木や地元の和紙で、山梨特産の葡萄を表現する等、全て手作りで仕上げました。総合案内所は、7月28日(月)から8月9日(土)まで設置し、甲府東高校生など延べ78人の高校生が競技種目別大会や観光の情報提供などの運営にあたりました。

### 4 競技・運営補助員の活動

大会期間中は、競技・運営補助員として高校生2,909人が活動しました。各競技会場では、競技の運営を補助するとともに、弁当や飲み物等の運搬、駐車場の誘導、場内アナウンス、会場受付など様々な活動を行い、大会を支えました。

全国から来県された選手や観客などに明るく挨拶や応対をする生徒の姿を各競技会場で見ることができ、来訪者に「おもてなしの心」を伝えることができました。また、本県高校生にとってスポーツを「する・観る・支える」ことの素晴らしさを実感できる機会となりました。

教職員の皆さんには、県生徒実践委員会の活動をご支援いただくとともに、大会期間中には、競技・運営役員としてご協力をいただき、ありがとうございました。



問い合わせ 全国高校総体推進室 055-223-1640

## 「山梨県教職員文化展」の作品を募集しています！

### 福利給与課

山梨県教職員文化展は、教職員（公立学校共済組合員等）の作品の展示を通して、創作技術等の向上と教職員相互の親睦・交流を図ることを目的とし、今年度で三十九回目を迎えます。今年度の開催にあたり、教職員の皆様から作品を募集しています。

日頃の創作活動の成果をこの機会に是非ご発表ください。

作品の応募要領につきましては、各所属へ送付しました通知または公立学校共済組合山梨支部のホームページをご覧ください。



**作品募集** 募集期間：平成26年11月7日(金) まで  
募集部門：美術部門・書道部門・写真部門

### 山梨県教職員文化展の開催予定

開催期間：平成27年1月18日(日) 午後～24日(土)（19日は閲覧エリア休館日）  
会場：山梨県立図書館イベントスペース  
主催：山梨県教育委員会  
公立学校共済組合山梨支部

**お問い合わせ** 公立学校共済組合山梨支部 電話 055-223-1745

## 『サポステ・学校連携推進事業』



日本経済が2008年のリーマンショック前の水準に回復した状況にある今日、久しぶりに「人手不足」という言葉を耳にします。反面、仕事に就いておらず、家事も通学もしていない若者は全国に60万人とも70万人ともいわれております。山梨県には4400人いると推定されています。

厚生労働省は、ニート（若年無業者）などの若者の就職的自立を支援するため、「地域若者サポートステーション」（略称サポステ）を、全国160カ所に設置し、支援体制の強化を図ってきています。山梨県では、平成18年に厚生労働省から委託を受けた、公益財団法人・山梨県青少年協会が、「山梨県若者サポートステーション」を運営しています。サポステでは、キャリア・コンサルタント等による専門的な相談等、自立に向けた様々な支援プログラムを実施しています。また、各市町に出向き「サポステ移動相談会」も開催しています。学校連携推進事業では、学校等の教育機関やハローワークと連携し、中途退学者やその保護者を対象に様々な相談に応じ、進路決定をサポートしています。



山梨県若者サポートステーション [リバース和戸館内 TEL 055-230-2239]